

第2分科会

テーマ：河川改修等における工夫事例 ～災害復旧、樹木管理～

No.	題名	地方ブロック	水系名 河川名	直轄／補助 (級別)	河川概要				発表者	所属部署		事業の概要
					河川の 流域面積	河川分類	整備計画流量※1	セグメント※1		機 関	部・事務所	
1	北上川上流自然再生事業（和賀川）事業概要・モニタリング・成果	東北	北上川水系 和賀川	直轄(その他)	890 km ²	中小河川	1,400m ³ /s (W=1/30)	1	おおの 大野 涼子	東北地方整備局	岩手河川国道事務所 水沢出張所	<ul style="list-style-type: none"> ・北上川右支川和賀川の合流点の自然再生事業における対策工事後のモニタリング結果の報告。 ・湯田ダム完成後、流量の安定による河川の2極化、流路の左岸側への固定化、礫河原の消失。 ・河道切り下げ、河岸防護工等の実施後から5年間のモニタリング結果についての報告である。
2	名取川における河道内民地伐採の対応について ～高水敷民地の繁茂伐採の実施と課題や対策等～	東北	名取川水系 名取川	直轄(1級)	939 km ²	大河川	2,700m ³ /s (W=1/70)	2-1	ちば 千葉 博	東北地方整備局	仙台河川国道事務所	<ul style="list-style-type: none"> ・名取川の洪水敷樹林化による流下阻害・治安難等の課題が未解消であった。 ・民地対応（所有者承諾等）の調整により、伐採に至れた経緯についての報告である。
3	最上川下流河道掘削事業における樹木再繁茂対策について	東北	最上川水系 最上川	直轄(1級)	7040 km ²	大河川	7000m ³ /s (W=1/150)	2-1	たなか 田中 たいすけ 大輔	東北地方整備局	酒田河川国道事務所	<ul style="list-style-type: none"> ・河道掘削形状の他、草本類を活用した樹木再繁茂対策を実施した。
4	千曲川自然再生実施箇所における大規模洪水後の再樹林化リスク評価手法の立案	北陸	信濃川水系 千曲川	直轄(1級)	7163 km ²	大河川	4000m ³ /s (W=1/16)	1	ワタナベ 渡邊 ヒロユキ 洋之	北陸地方整備局	千曲川河川事務所	<p>自然再生事業として千曲川中流域において砂礫河原再生として河道掘削を実施しているところであるが令和元年東日本台風による影響により千曲川において大規模な洪水が発生し、河道内の砂州が大きく変動したため、自然再生実施箇所が受けたインパクトにより今後の事業実施箇所の見直しの検討について報告を行う。</p>
5	信濃川下流河道掘削における環境配慮の取組み	北陸	信濃川水系 信濃川	直轄(1級)	1260 km ²	大河川	3600m ³ /s (W=1/90)	2-2	ナガイ 永井 シンゴ 新悟	北陸地方整備局	信濃川下流河川事務所	<p>信濃川下流河川事務所では、河積確保および流加能力向上を目的とした河道掘削を実施していくなかで、治水、環境の両面から河道計画を検討する必要がある。河道掘削によって、多様な生物生息環境を創出するとともに、河道掘削後の将来に河積阻害として問題となるヤナギ類について、再繁茂・再萌芽の抑制も考慮した掘削方法や環境創出の維持管理についても検討する。</p>
6	多自然アドバイザー制度活用による多自然川づくりの検証	中国	錦川水系 錦川	補助(2級)	890 km ²	中小河川	2,450m ³ /s (W=1/10)	2-1	うめだ 梅田 さとし 諭	山口県	土木建築部河川課	<ul style="list-style-type: none"> ・平成17年9月台風により、錦川が洪水被害を受け、河川激甚災害対策特別緊急事業を実施。 ・錦川の自然環境・景観の保全のため多自然アドバイザー制度活用により多自然川づくりを行ったが、平成21年度の事業完了から10年以上が経過したため、当時からの変化を検証、考察する。
7	小石原川における浚渫工事について	九州	筑後川水系 小石原川	補助(1級)	85 km ²	中小河川	520m ³ /s (W=1/50)	1	マトノ 的野 ナオヤ 直矢	福岡県	朝倉県土整備事務所	<ul style="list-style-type: none"> ・浚渫工事をした際に一緒にワンドも掘りませんか？